

【緑地を楽しむ本】

きんぴかのむし じんがさはむし

かがくのとも 2023年6月号

吉谷昭憲さく 福音館書店



西緑地にはヒルガオはあるかしら？あつたら葉っぱに穴が開いているかどうか、調べてみましょう。穴が開いていて、その切り口が新しかったら、裏に金ぴかのジンガサハムシがいる可能性があります。

ジンガサハムシとは、昔の被り物の陣笠に形が似ているからついた名前。そして、小さいけど宇宙船にそっくり！アリなどにかみつかれそうになると、足を縮めて葉っぱにぴったりとくっつき、こもってしまうことができます。

ゴマ粒より小さい卵からかえった幼虫は、脱皮するとその殻を背中につけたまま。何回も脱皮するので、殻の数も増えていきます。

さなぎを経て成虫になってから、飛び立てるまでに3日もかかります。ジンガサハムシに会ってみたいですね。

(齋藤好子)



ジンガサハムシ幼虫。背中に脱皮殻を3つ背負っています。